

長谷川恵慈君

”

吉川吉彦君 9月15日母の通夜告別式にご参列いただきまして有難うございました。32年間の闘病生活とともに看護に人間の生きざまをまざまざと感じながらふりかえっている日々です。

落合益夫君 先日のライラで当社の社員が大変お世話になりました。

外山晴一君 牛腸さん、塩原さんようこそ。

馬場直次郎君 途中で帰ります宣しく、

本間建雄美君 BOXに協力。

山崎勲君

安田貞夫君

芦田義重君 BOXに協力して……。

ロータリー財団ボックス：

淵岡茂君 ガバナー公式訪問の析には皆様よりBOXに協力いただき大変ありがとうございます。年間1人12,000円目標です。今後共宜しく願います。

早川龍雄君 米山BOXありがとうございました。

吉川吉彦君

山崎勲君

米山奨学会：

早川龍雄君 10月は米山月間です皆様の御協力宜しくお願い致します。

佐藤弘志君

米山忠俊君 BOXに協力して

淵岡茂君 時節柄寄付集めも大変ですが、ニコニコ財団共々手を取りあって努力いたしましょう。

吉川吉彦君

ライラ研修報告会：

西山 斉ライラ副委員長

10月1、2、3日に「21世紀に向かって」—ともに生きる社会—のテーマの下、国立赤城青年の家で開催されましたライラ研修にコンピューターシステム様の牛腸君、塩原君とともに参加して参りました。

1日目は、オリエンテーションに始まり、元群馬県警白バイ隊員であった視力障害者の方の講演を聞き、障害があると不自由という表現を用いられるが不自由ではなく不便だけで不自由、自由は人それぞれの心持ちにあるという点が非常に印象に残りました。又、講演を聞いて初めて知ったのですが盲導犬を見かけてもカワイイからといって撫でたり、遊んだりは絶対にせず、むしろ無視

してほしいとのことでした。いくら訓練を受けた盲導犬であっても所詮は犬であるので楽しいことに興味を示し誘導に集中しなくなるそうです。特に屋外での移動中にトイレに入ることがあるわけですが、トイレの中にまでは盲導犬を入れないそうで外に待たせている際が一番心配だそうです。通行人がポツンと待っている盲導犬に声をかけたり、遊んだりすることで冷静さを失ったり、最悪のケースは、いなくなることも考えられるからだそうです。前橋市内にも盲導犬は3頭しかおらず、普段我々も盲導犬を見かける機会はそうはないかと思いますが、見かけた際には是非ともお気を付けいただきたいと思います。

2人目の講師として「21世紀への経済と社会」というテーマでお話いただき、20世紀の総括として科学技術は進歩し生活も豊になって来ている反面で人の精神は公共性を失い、知識は軽薄化しており、21世紀へのキーワードとして最近良く言われている自然と人間のやさしさを回復することが大切と改めて感じさせられました。

2日目は標高1,332メートルの鍋割山登山が行われ、山頂に到達した際にはそれなりの達成感があり、目標に対して一步一步着実に前進する大切さを感じることができました。

最終日には、前橋市の国際交流員の方と無認可の老人施設を運営されている方のお話を聞き考えさせられる点多々あり非常に参考となりました。

ライラという意味も知らず、ただ引率すれば良いのであらうと考えて参加させていただいた研修でありましたが、研修プログラムはもちろんではありますが、夜な夜なの他クラブとの方とのお話も非常に勉強になり、大変良い機会をお与えいただき本当にありがとうございました。

研修生 牛腸雅毅君

1999年10月1日～3日の3日間国立赤城青年の家で、ライラ研修に行っていました。総勢300人位の研修でした。研修テーマは、「21世紀に向かって」というテーマで今後どのようにして21世紀を向かえるべきなのかを考えるための講演やカリキュラムが組まれていました。出発する前に三条北ロータリーの方々から説明はありましたが、具体的には、どのような研修なのか不安も多少ありました。

実際の研修内容は、体に障害を持つ方の講演や日本語をうまく話せない外国人の講演・グループディスカッション等でした。

中でも、視覚障害者の方の講演が一番考えさせられました。その講演の中でこんなことをおっしゃっていました。眼の不自由な渡辺さんと司会者が紹介なさったのですが、渡辺さんは、視覚障害者といわれた方がいいと言うのです。渡辺さんは、何を持って眼の不自由・眼の自由と言うのか？また渡辺さんは、今まで一度も眼が不自由だと思ったことは無いとおっしゃっていました。私は、司会者の方が悪気があったわけではなく、むしろ気を使った言い方をされたのだと思いますが、人によってこうも感じ方が違うのだと思いました。私が思うには、心構えだと思います。今自分が置かれている状況を素直に見つめ前向きに生きているからだだと思います。